



人権教育参観実施 優しさあふれる厚東川中をつくろう

7月6日(木)、人権教育参観日を行いました。本校では毎年人権教育参観日を実施し、生徒・教職員が深く人権について学ぶ機会を設けています。昨年は、授業参観と障害者理解をテーマに講演会を行い、その後、学校運営協議会で生徒代表と「人権が尊重される心豊かな厚東川中校区を実現するために」をテーマに熟議を行いました。今年度は、下関南総合支援学校今田真樹先生を講師にお迎えし、「多様な性から多様性を考えよう」をテーマに講演をいただき、その後、全校生徒・教員、保護者・地域住民の方々約80名で「よりよい地域社会をめざして」というテーマで熟議を行いました。

今田先生の講演



地域・保護者・生徒での話し合い

授業では多くの保護者・学校運営協議会委員・人権教育推進委員の皆様にご参加いただきました。1年は「さかなのなみだ」、2年は「外国からきた転校生」、3年は「臓器ドナー」という題材をもとに、人権意識の高揚をねらいとした授業を行いました。「狭い水槽に入れられたメジナは必ず1匹を仲間外れにして攻撃してしまう」という話をきっかけに、いじめをなくすために自分ができることを考えた1年生。「ピアスをしたアメリカからの転校生に対して自分だったらどんなアクションを取るか」を考えながら、外国の人たちと気持ちよく一緒に暮らしていくために必要なことを考えた2年生。「脳死臓器提供に肯定的なのに、自分の家族では受け入れられない」という矛盾した思いに悩む新聞の投書から、倫理観の違いや命に対する思いの違いを受け入れ、生命の尊さについて考えた3年生。各学年で一人ひとりが自分事としてしっかり考え、意見を伝えていました。



1年生



2年生



3年生

・僕は宗教や人種など差別を超えてみんなが仲良くいじめがない世界にしたいと思った。これからは相手の気持ちを理解して生きていきたい。(1年)

・自分は仮想空間の人が好きだけど、裏は男か女かわからないから迷っていたけれど、これからはどんどん推していこうと思った。(2年)

・これからは見た目でも人の性別を決めつけず、その人の思いを大切にしたいと思った。今までは自分や他人の性について深く考えたことはなかった。人それぞれいろいろな個性を持っていることなど、たくさんのが分かった。(3年)

・LGBTについて学べたことが大変勉強になった。我が子以外の生徒に話す機会があつて楽しかった。(保護者)

・自分たちの年代はLGBTの方々に偏見を持った年代だと思う。今回の講演会で偏見を払拭できたと思う。考えを合わせてあげるのではなく、いてもいい、いて当然なんだという考えになった。(保護者)

・「本当に当たり前か？」を考えることという話が印象に残った。熟議を設けることで、生徒たちと話し合えることは大変意義深いことである。一つ一つの積み重ねが大事であると思う。(地域)

救急救命講習会

6月5日(月)全校生徒が救急救命講習を受けました。日本赤十字社山口県支部の 福本様、山本様、松本様を講師に迎え、グループごとに一次救命処置(心肺蘇生とAED)の仕方を学びました。中学生という年齢では、「自他の命を守る」ということを考える必要があります。いざという時、家族や周りにいる人がすぐに手当を行えば、救命の可能性は高くなります。救急車要請から到着までの約10分間、「自分たちは何ができるのか」について知って、身につけておくことは大切なことです。まずは、「自分事として考え、人任せにしないこと。周りの人に躊躇なく助けを求めること。」が重要です。



全員が体験しました

PTA育成部研修会

6月17日(土)、日本防災士会山口県支部長山本晴彦先生をお招きして「厚東地区の防災」についてのPTA研修会が行われました。近年日本中で大きな災害が起こり、先日の大雨では、厚東川中校区でも多くの被害がありました。必要な知識や情報を共有し、実践できるようにしておくことで、私たち自身や大切な人たちを守ることができます。



宇部市ハザードマップを見ながらの研修

今回の研修は、防災意識の高まりと、対策の充実につながる有意義な研修でした。

生徒集会 ～言葉について考えよう～

最近言葉の使い方で見気になる場面が続きました。6月の生徒集会で次のように話したので、ご家庭でも話題にさせていただけると幸いです。

ある教育大学で行われた興味深い実験があります。ご飯、植物、人における「言葉の力」を確かめた実験です。ご飯、植物を3つずつ用意し、それぞれ別々に毎日15回ずつ「ばかやろう」「ありがとう」の声をかけ、一つには何も声をかけない様子を見ました。ご飯には、「ばかやろう」「無視」「ありがとう」の順番でカビが生え、植物は「ばかやろう」「無視」のものは、成長が遅く、枯れて、「ありがとう」のものは順調に成長しました。また、家族内でマイナスのことを言い続けた期間では、家族の人は頭痛や腹痛など体調不良が起こり、プラスの言葉を言い続けた期間では家族・友達間で会話が多くなり、人間関係がよくなったという結果が出ました。人が使う言葉は、さまざまなものに影響を与えることは明白です。「言葉には私たちの脳を変える作用がある」ということは、脳科学の世界では常識だそうです。

今このことを踏まえて、みなさんの日常生活を考えてみてください。相手が「嬉しいな、元気が出るな、ほんわかするな」という言葉を発していますか。「心が痛い、悲しい、落ち込む」そんな言葉を発していませんか。同じ言葉でも状況によれば、励ます言葉にも、暴力的な言葉にもなります。事実でも、伝える判断をまちがえると、思わぬ問題につながります。そして、人には癖があります。意識せずに口から出てしまう言葉もあります。ですから、なおさら、私たちは「言葉には大きな力がある」ということを意識して、その言葉を向ける人の気持ちを想像して、発しなければいけないのです。みなさんだけでなく、私たち大人ももちろんです。

人と時と場を考えて、思いやりのある言葉を使い、「優しさ」があふれる学校にしていきたいと思います。

あいさつ大使任命～生徒会つながりプロジェクト～



「あいさつ大使プロジェクト」として、総務委員主催の「あいさつナンバーワン選手権」を行いました。全校生徒が考える「あいさつ世界一にふさわしいあいさつ」は「相手が返答したくなるあいさつ」です。そのあいさつに向けて陰日向なく実践している生徒を、全校から選出しました。各学年1名ずつが任命されました。